

認知症BPSD対応研修

BPSD出現時の適切な対応を考えよう

事例6 食事拒否

【この教材のねらい】

今回配信する教材は、認知症ケア場面の事例を使い、さまざまな視点からBPSD(行動・心理症状)への対応について理解を深めていくものである。

事例の限られた情報から、どのような原因が考えられるか、どのような対応方法が考えられるかを共有し、今後の認知症ケアのヒントとして活用していただきたい。

【事例6】

Fさん、70代、女性、介護老人保健施設入所。
脳血管性認知症

脳梗塞を発症して入院。回復期リハビリテーション病棟で3か月のリハビリテーションを実施した後、左不全片麻痺、軽度の失語症が残った状態で介護老人保健施設に入所。

【事例6(続き)】

食事は一部介助を行っていたが、むせることが多くなってきたため、食事形態をきざみ食からミキサー食に変更した。その後、徐々に食事量が減少し、最近ほとんど食事に手を付けないことが多くなってしまっている。職員が「ちゃんのご飯を食べないと身体がどんどん弱っちゃいますよ」と食事を促しても、「食べたくない」とそっぽをむいてしまう。

ワーク1

Fさんの食事拒否の原因を探りましょう

認知症が及ぼす影響（中核症状）や
心理面・身体面・環境面の影響など、
考えられること・思いついたことを
あげてみましょう

ワーク2

この事例の職員の対応はどう感じますか？
問題と思う点をあげてください。

ワーク3

あなたならどう対応しますか？
適切な対応方法を考えてみましょう。

【この教材を終えるにあたって】

この研修には「正解」はありません。認知症ケアは、その人がどういう性格か、これまでどのような生活を送ってきたのか、何を望んでいるのか、などによって対応が異なるためです。

様々な対応方法を共有することで、その人に合った適切な対応ができるように「認知症ケアの引き出し」を増やしていきましょう。

お疲れ様でした。